

## 令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立西が岡小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 2 調査期日

令和5年4月18日(火)

#### 3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 英語, 生徒質問紙)

#### 4 本校の参加状況

① 国語 66人

② 算数 66人

#### 5 留意事項

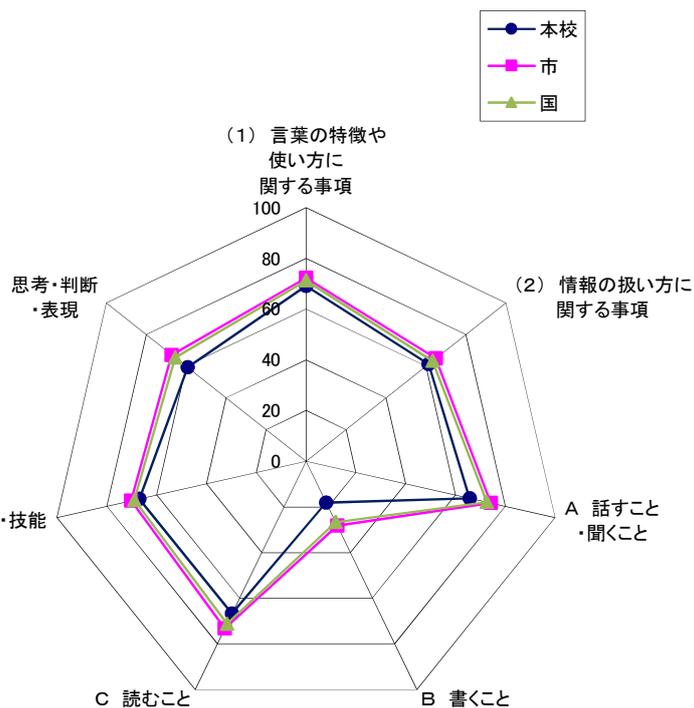
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

# 宇都宮市立西が岡小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

## 【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域など	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	69.1	72.3	71.2
	(2) 情報の扱い方に関する事項	61.4	65.0	63.4
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	65.7	74.2	72.6
	B 書くこと	18.2	28.2	26.7
	C 読むこと	66.7	73.3	71.2
観点	知識・技能	66.9	70.2	68.9
	思考・判断・表現	59.3	67.2	65.5
	主体的に学習に取り組む態度			



## ★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方に関する事項	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○●生活の中で使う頻度の高い漢字については、正しく書くことができるが、使う頻度の少ない漢字については、課題が見られる。</p>	<p>○良質な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <p>・今後も反復練習やデジタル教科書の活用、読書活動を推進し、語彙力を伸ばすようにする。</p> <p>・漢字練習は家庭学習で取り組ませるなど繰り返し行い、定着させる必要がある。熟語調べや短文作りなどを取り入れながら、漢字の習熟を図る。</p>
(2) 情報の扱い方に関する事項	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○図などによる語句と語句との関係の表し方については、比較的理解していると言える。複数の語句を丸や四角で囲んだり、語句と語句を線でつないだりするなど、関係の表し方について他教科に渡り実践している成果であると考えられる。</p> <p>●原因と結果など、情報と情報との関係について理解することに課題がある。</p>	<p>・今後も情報の関係性を図示することによって考えをより明確なものにしたり、思考をまとめたりすることができるよう指導していく。</p> <p>・多様な内容や別々の要素などをまとめたり、類似する点をもとにして他のことを類推したりするなど、情報と情報の関係付けについて着目するよう指導していく。</p>
A 話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>●目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることに課題が見られる。</p>	<p>・友達の考えと比較しながら自分の考えをまとめることができるよう、話合いの目的を確認したりポイントを明示したりするなどして、話合い活動の取り入れ方を工夫する。</p>
B 書くこと	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>●参考資料や文字数などの条件に合わせ、自分の考えをまとめることに課題が見られる。</p>	<p>・授業の考察や振り返りなどの場で、資料や結果などをもとに、指定された文字数で自分の考えをまとめる機会を取り入れるようにする。</p>

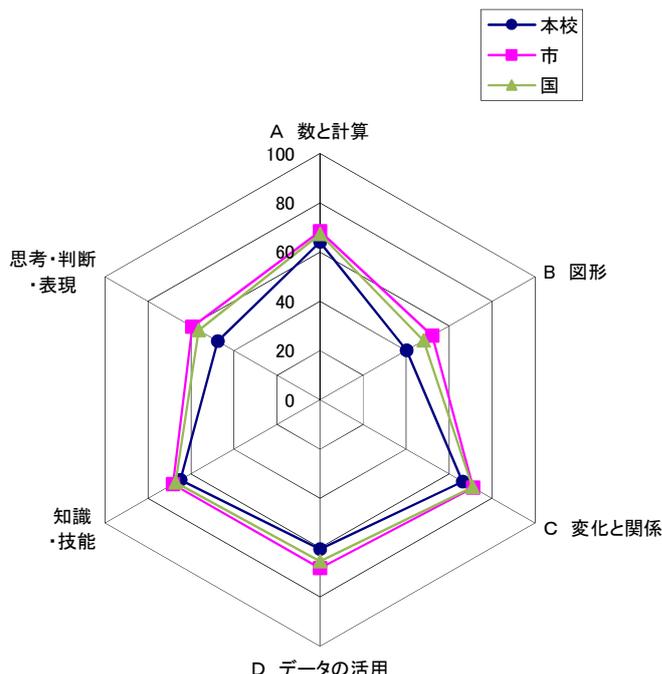
C 読むこと	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○目的に応じて、文章と図表を結び付けるなどして、必要な情報を見つけることが比較的できる。日頃から写真や挿絵などの資料を活用し、視覚的な支援を取り入れている成果が表れている。</p> <p>●目的を意識して、中心となる語や文を見付けて、要約することに課題が見られる。</p>	<p>・今後も、誰もが分かりやすいように、図表やグラフ、写真や挿絵などの資料を活用し、視覚的な支援を継続する。</p> <p>・文章全体の構成を捉え、内容を正確に把握したうえで、もとの文章の構成や表現をそのまま生かしたり自分の言葉を用いたりして要約する学習の場を増やしていく。</p>
--------	---	--

# 宇都宮市立西が岡小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

### 【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	64.1	68.4	67.3
	B 図形	40.2	52.2	48.2
	C 測定			
	C 変化と関係	66.3	71.2	70.9
	D データの活用	60.6	68.3	65.5
観点	知識・技能	65.0	68.4	67.2
	思考・判断・表現	47.6	59.4	56.5
	主体的に学習に取り組む態度			



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	<p>平均正答率は、市の平均と比べて低い。</p> <p>○一の位が0の二つの2位数について乗法の計算をすることはよくできている。練習問題を繰り返し行い、習熟を図った成果であると考えられる。</p> <p>●示された日常生活の場面を解釈し、求め方と答えを、式や言葉を用いて説明し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断する問題では、課題が見られる。</p>	<p>・今後も、基本的な計算の定着に向けた繰り返し練習を継続していくとともに、見直しの姿勢を身に付けていけるよう、確認作業も活動に取り入れるようにする。</p> <p>・問題場面を正確に理解できるようにするために、立式した理由を説明したり、話し合ったりする時間を設ける。</p> <p>・一つの問題場面でも、様々な立式の仕方があることに気付けるよう、友達の考えた式が表す意味について考えたり話し合ったりする活動を設ける。</p>
B 図形	<p>平均正答率は、市の平均と比べて低い。</p> <p>○テープを2本の直線で切ってできた四角形の名前と、その四角形の特徴を選ぶ問題は比較的よくできている。具体物を用いて、四角形(台形)の意味や性質について理解を深めたことが成果であると考えられる。</p> <p>●高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係をもとに面積の大小を判断し、その理由を説明する問題では、課題が見られる。</p>	<p>・今後も、具体物を操作したり作図したりする活動やタブレット端末を使った活動などを取り入れ、図形に関する知識の習熟を図る。</p> <p>・図形の意味や性質などの基礎的な知識の理解を生かして答えたり、理由を説明したりする発展的な問題に取り組む機会を増やしていく。</p>
C 変化と関係	<p>平均正答率は、市の平均よりも低い。</p> <p>○伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取る問題がよくできている。二つの数量を表にまとめ、横方向や縦方向に見ることにより規則性に気付くよう繰り返し練習をした成果であると考えられる。</p> <p>●伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを、式や言葉で記述する問題に課題が見られる。</p>	<p>・今後も、数量の関係性について規則性を見付け出せるよう、気付いたことを図や表に書き込ませながら丁寧に指導するようにする。</p> <p>・どのような式になるのか気付かせるため、問題文の場面を図や絵などで表して考えさせるようにする。また、式の意味を言葉で記述し、友達と比べる活動を取り入れ、考え方や表現の仕方について自分の考えを深められるようにする。</p>

<p>D データの活用</p>	<p>平均正答率は、市の平均よりも低い。  ○「以上」の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取る問題がよくできている。表の横の見方を考察した上で、繰り返し練習をした成果であると考えられる。  ●示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを、言葉と数を用いて記述する問題に課題が見られる。</p>	<p>・今後も、他教科にわたり、グラフをはじめとする資料(データ)を活用する場面を取り入れるようにする。  ・棒グラフのデータの項目間の関係が読み取れるように、基礎的問題から発展問題まで多様な問題を提示し取り組ませるような指導を継続していく。  ・表、棒グラフ、帯グラフなどのデータを読み取り、その特徴を記述する問題を提示し、指導を継続していく。</p>
-----------------	---	---

## 宇都宮市立西が岡小学校 第6学年 児童質問紙

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「朝食を毎日食べていますか」、「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。」、「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。」で肯定的な回答をした児童の割合が、いずれも全国平均を上回っていた。児童が規則正しい生活を送っていることが分かる。今後も、高い意識で規則正しい生活を送ることができるよう、家庭科や保健体育、学級活動の学習や保健指導などを通して児童に伝えていくとともに、学級懇談会や学年便りなどで保護者への啓発を継続していきたい。

○「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。」、「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」の肯定的回答の割合も高く、学校が児童から、ある程度信頼を得ていることが分かる。今後も、児童のよいところを認め、児童の自己肯定感を高めるとともに、教育相談などの場を充実させたい。

●「読書は好きですか。」で肯定的な回答をした児童の割合が、全国平均を上回っていた。一方で「新聞を読んでいますか。」で肯定的な回答をした児童の割合が、全国平均を大きく下回っていた。読むことに対して苦手意識をもっていないが、新聞に触れる機会が少ない児童が多いことが分かる。今後は、社会や国語の授業で新聞を取り上げたり、図書室の新聞コーナーを活用したりすることで、社会で起こる様々な事象に児童が興味をもてるようにしていきたい。

## 宇都宮市立西が岡小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
学習意欲を高める指導の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・興味を高める導入や課題提示の工夫</li> <li>・自力で課題解決にあたる時間の確保</li> <li>・ペア学習、グループ活動など最適な学び合いの場を設定し、対話による課題解決の場の工夫</li> <li>・ICT機器や一人一台端末、図書等の効果的な活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。」の設問に肯定的に回答している児童の割合は97.0%で、全国平均と比べ1.9ポイント上回っていた。</li> <li>・「課題に向けて自分で考え、自分から取り組んでいましたか。」の設問に肯定的に回答している児童の割合は82.1%で、全国平均と比べ3.3ポイント上回っていた。</li> </ul>
分かる授業を目指した授業力の向上と基礎・基本の徹底	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的・対話的で深い学びの実現に向け、「宇都宮モデル」と「西が岡スタイル（つかむ、考える・つなぐ、まとめる、ふりかえる）」を取り入れた授業の実施</li> <li>・課題提示、教材提示、発問の工夫（特別支援教育の視点を取り入れる。）</li> <li>・問題解決への見通しを立て、教科の見方・考え方を使って考える授業の展開</li> <li>・児童の発言・考えをつなぐ教師のコーディネート力の向上</li> <li>・学習した経過や学んだ内容が分かりやすい板書の工夫</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「5年生までに受けた授業は、自分に合った教え方、教材、学習時間になっていましたか。」の設問に肯定的に回答している児童の割合は91.0%で、全国平均と比べ7.9ポイント上回っていた。</li> </ul>